記者発表（配付）資料

平成 23 年 7 月 20 日

所属部課	館　　長	副 館 長	担当	連絡先
萩博物館	湯本重男	樋口尚樹	樋口尚樹 一坂太郎	25-6447

件　　名	テーマ展「高島北海と長門峡」 高杉晋作資料室テーマ展示「生誕 170 年記念　吉田稔麿の生涯（Ⅱ）」の開催について

○テーマ展示「高島北海と長門峡」

萩博物館では今年度エントランスホールの一画などを利用して、時節に応じた年 4 回程度の小展示を予定しています。今回の展示は、その第 2 回目で、高島北海没後 80 年を記念して、高島北海が長門峡の整備に尽くした業績を写真パネル等で紹介します。

高島北海は嘉永 3 年（1850）萩城下江向で生まれ、明治 5 年（1872）生野鉱山学校に入りフランス語・地質学・植物学などを修得しました。その後、農商務省に入り、明治 17 年（1884）から 4 年間フランスに留学。彼の日本画がガレやプルーヴェなどに影響を与え、アール・ヌーボーを一層促進する契機ともなりました。53 歳で画家専業を決意し、中央画壇で活躍しました。晩年は長門峡の景色を描いた画幅の売上金を長門峡探勝道路の建設費にあてるなど、整備と保護に尽力しました。

長門峡は萩市川上から山口市阿東にまたがる総延長約 5 ㎞の渓谷で、大正 9 年（1920）高島北海によって長門峡と名付けられ、大正 12 年（1923）国の名勝に指定されました。鉄道が開通した大正 14 年（1925）当時の萩では、長門峡は萩観光の目玉の一つであり、阿武川下りの遊覧船も就航していました。

１．会　　期　：　**平成 23 年 7 月 23 日（土）～9 月 30 日（金）**

２．会　　場　：　萩博物館エントランスホール（山口県萩市堀内 355　℡0838-25-6447）
※無料で観覧できます。

３．開館時間　：　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

４．展示内容　：・高島北海が絵付けした萩焼茶碗（三輪窯 9 代三輪雪堂作、個人蔵）（写真１）
・長門峡に計画された水力発電所建設に反対する高島北海書簡（複製、萩博物館蔵）
・長門峡鳥瞰図パネル
・長門峡を探勝する高島北海写真パネル（写真 2）

など 12 点

○高杉晋作資料室テーマ展示「生誕170年記念　吉田稔麿の生涯（Ⅱ）」

本年、平成２３年（２０１１）は、吉田稔麿（栄太郎）が萩の松本村新道に生まれて、１７０年の節目にあたります。稔麿は高杉晋作・久坂玄瑞と共に松陰門下の三傑と称されますが、元治元年（１８６４）６月、京都で勃発した池田屋事変のさい、波乱に満ちた２４歳の生涯を終えました。後年、維新の元勲となった品川弥二郎は、稔麿が生きていたら総理大臣になったと語ったと伝えられるほどです。しかしその名や業績は、高杉・久坂に比べて決して広く知られているとは言えません。

萩博物館には萩本陣様から寄託していただいた吉田家旧蔵史料があります。これらを中心に、稔麿の実像をご紹介する展示を３期に分けて行いますが、その２期目です。

１．会　　期　：　平成23年8月1日（月）～11月30日（水）

２．会　　場　：　萩博物館高杉晋作資料室（※観覧料がかかります）

３．開館時間　：　午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

４．展示内容　：第2期については16点を展示し、主な史料を下記に示します。

①松陰・栄太郎往復書簡　安政5年12月16日　巻物松陰先生書簡（萩本陣蔵）
幽囚中の栄太郎（稔麿）に松陰が餅を届けたさいの添状。栄太郎が裏に返事を書いている。

②岡元太郎書簡　栄太郎あて　文久元年4月15日　まくり（萩本陣蔵）
岡山藩陪臣岡元太郎は万延元年（1860）10月、脱藩した栄太郎を支援した。

③久坂玄瑞書簡　巻物諸家文稿
脱藩した栄太郎を幕府方に潜入させようとする久坂の手紙（乙葉大輔あて）

④四国見分　巻物意見書上
栄太郎が脱藩後四国（丹波、但馬、丹後、出雲）を見聞し、一揆が起こりそうな所を探していたことが分かる。

⑤栄太郎書簡　母宛　文久2年3月15日
旗本妻木家に変名「松里勇」として仕える栄太郎が、母に宛てた。妻木の名代として領地に行ったら、役人たちがぺこぺこしたと喜ぶ。

⑥栄太郎辞職願い　文久2年5月20日
長州藩への復帰を決め、妻木家を去った際の願書。

５．ギャラリートーク　：**第1期終了前に**一坂特別学芸員が「晋作と吉田稔麿」と題し、展示解説します。第2期分については後日お知らせします。

と　き　7月23日（土）午後2時～、7月31日（日）午後3時～（約40分）

参加料　無料（ただし、観覧料は必要）